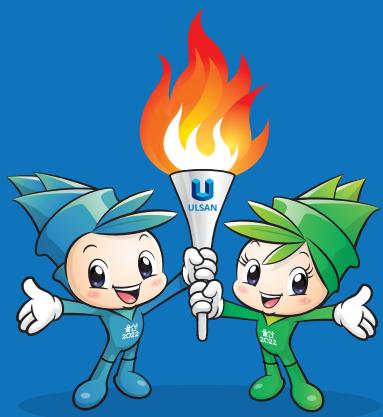




제103회 전국체육대회

THE 103rd NATIONAL SPORTS FESTIVAL



第103回韓国国体・蔚山2022 在日同胞選手団の記録



재일본대한체육회
在日本大韓体育会
KOREA SPORTS COUNCIL IN JAPAN



제103회 전국체육대회

THE 103rd NATIONAL SPORTS FESTIVAL



第103回韓国国体・蔚山2022 在日同胞選手団の記録

● 第103回全国体育大会・蔚山2022の紹介	4
● 在日同胞選手団派遣概要	5
● 在日同胞選手団名簿	
◇ 引率団、参観団、本部役員・スタッフ	6
◇ 各競技選手団	7
● 在日同胞選手団の活動記録	
◇ 在日同胞選手団の成績総評	9
◇ 海外同胞選手団メダル一覧と総合順位表	10
◇ 在日同胞選手団の獲得メダル一覧	10
◇ 歴代韓国国体在日同胞選手団の記録	11
◇ 在日同胞選手団結団式	12
◇ 開会式	14
◇ 競技別結果	16
サッカー	16
柔道	18
ボウリング	19
テコンドー	20
テニス	21
スカッショ	22
卓球	23
剣道	24
水泳、陸上、ラグビー	25
◇ 閉会式	26
● 在日同胞選手団「参加者のコメント」	28
● 第104回全国体育大会・全羅南道2023選手募集	36
● 在日同胞選手団・協賛広告	2, 37~56



第103回韓国国体・蔚山2022
在日同胞選手団の記録
発行所 在日本大韓体育会 /2022年12月

©2022 KOREA SPORTS COUNCIL IN JAPAN

本紙の掲載内容(文章、画像など)の一部および全てについて、事前の許諾なく無断で複製、複写、転載、転用、編集、改変、販売、送信、放送、配布、貸与、翻訳、変造などの二次利用を固く禁じます。万が一、そのような事実を発見した場合には、警告の上、悪質な場合には法的措置をとる場合がございます。



◆第103回全国体育大会・蔚山2022 概要

開催期間：2022年10月7日(金)～13日(木) 7日間

※柔道は9月21(水)～26日(月)に先行開催

開催地：蔚山総合スタジアムなど73競技場

開催種目：49種目(正式46、公開3、高校部、大学部、一般部、海外同胞部)

参加規模：約3万人(選手2万人、役員1万人=17市・道および18カ国・地域海外同胞)

主 催：大韓体育会

主 管：蔚山広域市、蔚山広域市教育厅、蔚山広域市体育会

◆スローガン：一つになる大韓民国、ともに走る蔚山体典

◆エンブレム：蔚山の英文イニシャル「U」をモチーフに、太和江国家庭園と十里大森を象徴する緑と国家庭園を包み込んで流れる太和江を表す青を調和して表現。



◆マスコット：蔚山を代表する太和江国家庭園(十里大森)の竹をモチーフに製作。ダイナミックなスポーツ大会を象徴する聖火は、新たに跳躍する蔚山を表現。

◇テウリ(左=全国体育大会マスコット)

「竹の節目」と「太和江の青さ」を表現。

◇テサン(右=全国障害者体育大会マスコット)

「竹の柔軟性」と「太和江国家庭園の快適さと安らかさ」を表現。





◆在日同胞選手団派遣概要

選手74人、監督・コーチ・主務24人、引率団5人、運営本部10人、参観団15人 合計128人

◆派遣種目(11種目)

海外同胞種目：サッカー、テコンド、テニス、ボウリング、スカッシュ、剣道、卓球

国内競技種目：柔道、陸上、水泳、テコンドー

親 善 試 合：ラグビー

◆在日同胞選手団公式日程

10月06日(木) : 在日同胞選手団結団式(ベニキアホテル梁山)

10月07日(金) : 第103回全国体育大会 開会式(蔚山総合スタジアム)

10月08(土)～12日(水) : 各競技場で種目別競技(柔道=国内種目=は9月21～26日に先行開催)

10月10日(月) : 大韓体育会長主催 午餐会

10月11日(火) : 金斗謙蔚山市長主催 海外同胞選手団 晩餐会

10月12日(水) : 世界韓人体育会総連合会 定期総会

10月13日(木) : 第103回全国体育大会 閉会式(蔚山総合スタジアム)

◆在日同胞選手団宿所

ベニキアホテル梁山

□引率団

選手団長：孫栄泰(東京慶尚南道道民会 会長／在日本大韓体育会 副会長)
 副 団 長：金昭夫(東京慶尚南道道民会 常任顧問／在日本大韓体育会 常任顧問)
 副 団 長：玉東瑚(東京慶尚南道道民会 副会長)
 副 団 長：孫哲鎬(民団福島県地方本部 団長)
 総 監 督：金利中(在日本大韓体育会 顧問)

□本部役員

崔相英 在日本大韓体育会 会長

□参観団

權五雄、任隆二、文京一、金英明、朴泰成、申命根、姜榮眞、申 実、金優子、宮崎博子
 權赫大、趙晃大、文智成、洪承震、李東元

□在日同胞選手団運営本部スタッフ

事務局長：朴相泓(在日本大韓体育会専務理事)
 渉 外：李東洙(在日本大韓体育会 対外協力部長)
 総 務：慎求範(前民団本国事務所次長)
 財 務：金明希(在日本大韓体育会総務部長)
 運営委員：安有恒(在日本大韓体育会関西本部監事)
 権源宅(在日本大韓体育会九州本部専務理事)
 報 道：鄭眞一(民団新聞)



サッカー(20人)

監督：金拓也
 コーチ：慎未有、安玄太
 主務：金太学
 選手：文泰樹、南将元、金輝星、張太祐、張賢祐、李明賢、康胤二
 張平修、具昇生、趙陽新、金康太、沈修輔、白太琥、李晃輝
 康翔、金龍哉



テコンドー(8人)

監督：金漢老
 コーチ：申準植、金武賢
 選手：男子 金秀範、山本陸人、李濟暉、文太一
 女子 李瑞月



柔道(6人)

監督：文吉洋
 女子監督：安沙好
 コーチ：李泰範
 選手：男子 小川裕暉、小川晟矢
 女子 許湖音



テニス(9人)

監督：申永吉
 女子監督：金順美
 コーチ：成正幸
 選手：男子 韓成民、鄭直喜、尹準熙
 女子 咸銀栄、崔菜月、尹栄湖



ボウリング(12人)

監督：鄭良洙
 コーチ：林永起
 選手：男子 韓新悟、宋在豪、金學均、金一男、吳官律、金玟秀
 女子 朴祥子、金賢淑、黃聖姬、車恩伊



スカッシュ(3人)

監督 : 李点順
 選手 : 男子 金炯珠
 女子 李閒鏞

**卓球(3人)**

監督 : 李信子
 選手 : 男子 李潤洙
 女子 李仙

**剣道(7人)**

監督 : 孫京翼
 選手 : 金文達、高橋忠志、河文龍、金振奎、金明燮、夏虎

**水泳(3人)**

監督 : 金一波
 コーチ : 金玟錫
 選手 : 男子 劉政頻

**陸上(2人)**

監督 : 洪政阮
 選手 : 男子 都康炳

**ラグビー(25人)**

監督 : 姜宗卓
 コーチ : 吳英吉、尹陽大
 選手 : 下村大樹、慎昌德、柳紀行、金清梧、豊田雄真、李潤太
 二階堂昇剛、金誠宇、馬悠仁、南成冠、南秀鉉、文陽善
 李豪純、大橋由弥、金諒、金孝舜、崔豪然、白驥浩
 李修平、金誠志、金大毅、黃光明





総 評

在日同胞は総合準優勝 金7、銀6、銅6…19個のメダル獲得

サッカー5年ぶりの頂点

第103回韓国国体蔚山大会が10月7日に開幕し、13日までの7日間、蔚山総合運動場をメインに蔚山市一円で行われ、すべての競技が終了し、10月13日夜、総合表彰式を兼ねた閉会式が蔚山総合スタジアムで行われました。

コロナの関係で海外同胞も参加した正常大会は3年ぶりです。在日同胞選手団（孫栄泰選手団長）はサッカー、ボウリング、テニス、テコンドー、卓球、スカッシュ、剣道の海外同胞部門7種目のほか、国内種目の柔道、水泳、陸上、ラグビー（親善試合）に出場しました。

国内種目の柔道で全員メダル

在日同胞は9月21日から26日まで事前に開催された柔道で高校女子-52kg級の許湖音（埼玉栄高校3年）が優勝したほか、男子一般と大学で銅メダルを獲得しました。

この勢いに乗って競技が始まった大会2日目にボウリング女子個人戦で、金と銀を獲得すると、スカッシュとテコンドーでも金メダルが続きました。

また、3大会5年ぶりの優勝を狙うサッカーは予選を順調に勝ち進み、準決勝は在豪州同胞と対戦。0-0のまま、PK戦に突入かと思われたアディショナルタイムに在日同胞がゴール前の混戦からこぼれ球を押し込み劇的な決勝ゴールを決め、決勝戦に駒を進めました。

在日同胞選手団は最終的に金7、銀6、銅6個の合計19個のメダルを獲得し、18カ国の海外同胞で競う「海外同胞の部」の総合で準優勝を飾りました。

海外同胞の部総合優勝は金メダル12個を獲得した在米国同胞、3位は金メダル6個の在インドネシア同胞でした。

コロナ禍の険路を克服…孫団長

在日同胞選手団の孫選手団長は「コロナ禍で3年ぶりの韓国国体だったが、様々な険路を克服しながらも選手たちはどの種目も一生懸命、戦ってくれた。ゴルフ

が不参加ながら、金メダルが前大会の5個を上回る7個は、すばらしい活躍」と笑顔を見せっていました。

来年の第104回全国体育大会・全羅南道2023は10月13日から19日までの7日間、木浦市をメインに全羅南道22の市・郡で開催されます。



表彰台で準優勝のカップを高々と掲げる孫栄泰在日同胞選手団長

海外同胞のメダル一覧

順位	居住国・地域	メダル				計
		金	銀	銅		
1	在米国	12	5	9	26	
2	在日本	7	6	6	19	
3	在インドネシア	6	8	5	19	
4	在フィリピン	2	3	6	11	
5	在豪州	1	4	8	13	
6	在カナダ	1	2	1	4	
7	在ニュージーランド	1	1	6	8	
8	在ベトナム	1	1	0	2	
9	在中国	0	0	3	3	
10	在ドイツ	0	0	1	1	
10	在マレーシア	0	0	1	1	
10	在サイパン	0	0	1	1	
10	在香港	0	0	1	1	
14	在ブラジル	0	0	0	0	
14	在アルゼンチン	0	0	0	0	
14	在グアム	0	0	0	0	
14	在スペイン	0	0	0	0	
14	在英国	0	0	0	0	
合 計		31	30	48	109	

在日同胞選手の獲得メダル

◆金(7)

許湖音 (柔道高校女子-52kg級=国内種目)

朴祥子 (ボウリング女子個人戦)

李炯珠 (スカッシュ女子)

金秀範 (テコンドー男子+80kg級)

山本陸人 (テコンドー男子-58kg級)

崔菜月、咸銀栄 (テニス女子ダブルス)

サッカー男子 (文泰樹、南将元、金輝星、張太祐、張賢祐、李明賢、康胤二、張平修、具昇生、趙陽新、金康太、沈修輔、白太琥、李晃輝、康翔、金龍哉)

◆銀(6)

金賢淑 (ボウリング女子個人戦)

尹準熙 (テニス男子シングルス)

韓成民・尹準熙 (テニス男子ダブルス)

李濟暉 (テコンドー男子-68kg級)

李仙 (卓球女子・シングルス)

剣道団体 (金文達、高橋忠志、河文龍、金振奎、金明燮、夏虎)

◆銅(6)

小川裕暉 (柔道一般男子-90kg級=国内種目)

小川晟矢 (柔道大学男子-81kg級=国内種目)

咸銀栄 (テニス女子シングルス)

李瑞月 (テコンドー女子-57kg級)

李潤洙 (卓球男子・シングルス)

朴祥子 (ボウリング女子マスターズ)



韓国団体 在日同胞選手団の記録

参加回数	国体回数	開催期間	開催都市	選手団長	総監督	獲得メダル数			順位	参加人数
						金	銀	銅		
1	30	1949.10.15~10.20	ソウル	蔡洙仁(東京)						3
2	34	1953.10.17~10.22	ソウル	鄭龍洙(東京)	金東春					25
3	35	1954.10.19~10.25	ソウル	金相吉(東京)	李仁燮					34
4	36	1955.10.15~10.21	ソウル	李能相(東京)	金莊煥					77
5	37	1956.10.03~10.09	ソウル	李能相(東京)	金東春				11位	132
6	38	1957.10.18~10.24	釜山	不明						
7	39	1958.10.03~10.09	ソウル	不明						
8	40	1959.10.03~10.09	ソウル	辛熙(東京)	李允求				10位	131
9	41	1960.10.10~10.16	大田	李裕天(東京)	金安守	2	1	0	3	10位
10	42	1961.10.11~10.15	ソウル	李允求(東京)	李錫儀	3	0	0	3	10位
11	43	1962.10.24~10.29	大邱	鄭建永(東京)	蔡洙仁	3	0	0	3	10位
12	44	1963.10.04~10.09	全州	金己哲(東京)	裴玉鉉	8	0	0	8	11位
13	45	1964.09.03~09.08	仁川	金普根(大阪)	李道述	1	0	1	2	12位
14	46	1965.10.05~10.10	光州	張基洙(東京)	金致淳	4	0	0	4	11位
15	47	1966.10.10~10.15	ソウル	鄭泰柱(福岡)	李奉男	2	0	0	2	11位
16	48	1967.10.05~10.10	ソウル	鄭泰柱(福岡)	金昌式	7	3	4	14	11位
17	49	1968.09.12~09.17	ソウル	姜宅佑(大阪)	曹祥鉉	3	2	2	7	12位
18	50	1969.10.28~11.02	ソウル	范填圭(東京)	金英宰	5	2	1	8	11位
19	51	1970.10.06~10.11	ソウル	范填圭(東京)	柳乙祚	1	3	4	8	10位
20	52	1971.10.08~10.13	ソウル	金振浩(大阪)	孫燁宇	4	5	2	11	12位
21	53	1972.10.06~10.11	ソウル	李俊明(北海道)	金致淳	3	6	2	11	11位
22	54	1973.10.12~10.17	釜山	朴源邦(東京)	安在成	4	5	8	17	11位
23	55	1974.10.08~10.13	ソウル	姜炳浚(大阪)	金性玉	5	3	4	12	11位
24	56	1975.10.07~10.12	大邱	蔡洙仁(東京)	丁海龍	2	1	5	8	11位
25	57	1976.10.12~10.17	釜山	朴鍾(山口)	全康夫	7	2	1	10	12位
26	58	1977.10.10~10.15	光州	朴成準(神奈川)	金仙吉	0	4	5	9	12位
27	59	1978.10.12~10.17	仁川	金仲浩(福岡)	丁海游	0	1	2	3	12位
28	60	1979.10.12~10.17	大田	徐興讚(福岡)	洪性仁	1	4	4	9	12位
29	61	1980.10.08~10.13	全州	金琮斗(北海道)	池宗淵	0	0	3	3	14位
30	62	1981.10.10~10.15	ソウル	金仁鶴(北海道)	金聖大	1	2	3	6	11位
31	63	1982.10.14~10.19	馬山	許允道(東京)	洪武壬	2	4	1	7	176
32	64	1983.10.06~10.11	仁川	尹達鏞(東京)	金壽男	0	3	4	7	162
33	65	1984.10.11~10.16	大邱	崔漢洛(愛知)	金南守	1	0	1	2	176
34	66	1985.10.10~10.15	春川	柳雲行(山梨)	金辰圭	0	7	4	11	173
35	67	1986.06.20~06.25	ソウル・釜山・京畿道	朴鍾(山口)	姜壽一	7	6	4	17	174
36	68	1987.10.13~10.18	光州・全南	張斗會(大阪)	高錫棋	6	3	2	11	1位
37	69	1988.05.07~05.28	ソウル等分散	金昌式(東京)	高澤均	11	2	1	14	93
38	70	1989.09.26~10.01	水原・安養・烏山	金在學(愛知)	金順寶	5	3	3	11	1位
39	71	1990.10.15~10.21	忠北	朴正準(大阪)	宋武夫	2	2	1	5	1位
40	72	1991.10.07~10.13	全北	金時頤(大阪)	金順英	8	4	5	17	2位
41	73	1992.10.10~10.16	大邱	金仁鶴(北海道)	黃石道	2	2	3	7	2位
42	74	1993.10.11~10.17	光州	金在學(愛知)	宋基泰	8	3	7	18	1位
43	75	1994.10.27~11.02	大田	金英宰(大阪)	金奉坤	8	3	5	16	1位
44	76	1995.10.02~10.08	慶北	金在學(愛知)	金文化	5	6	7	18	2位
45	77	1996.10.07~10.13	江原道	樺甲植(大阪)	鄭利光	6	4	1	11	2位
46	78	1997.10.08~10.14	慶南	崔萬斗(大阪)	河文洙	6	4	1	11	2位
47	79	1998.09.25~10.01	済州	康忠男(大阪)	文京一	3	6	3	12	1位
48	80	1999.10.11~10.18	仁川	鄭進(長野)	金七福	2	6	3	11	1位
49	81	2000.10.12~10.18	釜山	金海経(奈良)	安有恒	7	8	5	20	1位
50	82	2001.10.10~10.16	忠南	盧光善(大阪)	金順英	6	3	7	16	1位
51	83	2002.11.09~11.15	済州道	金洪斤(神奈川)	金一波	3	5	6	14	2位
52	84	2003.10.10~10.16	全北	鄭進(長野)	姜玄哲	2	0	8	10	1位
53	85	2004.10.08~10.14	忠北	朴安淳(東京)	李鍾官	9	2	2	13	1位
54	86	2005.10.14~10.20	蔚山	金昭夫(東京)	韓龍化	5	3	2	10	1位
55	87	2006.10.17~10.23	慶北	南照男(東京)	金泰珍	11	7	5	23	1位
56	88	2007.10.08~10.14	光州	金順英(大阪)	趙靖芳	3	5	8	16	3位
57	89	2008.10.10~10.16	全南	羅基祖(東京)	姜玄哲	6	2	10	18	2位
58	90	2009.10.18~10.26	大田	柳箕桓(東京)	金泰珍	6	2	4	12	3位
59	91	2010.10.06~10.12	晋州	金昭夫(東京)	韓龍化	8	3	6	17	1位
60	92	2011.10.06~10.12	京畿道	金漢翊(大阪)	金一波	8	3	6	17	2位
61	93	2012.10.11~10.18	大邱	千柄勝(東京)	李壽源	13	5	4	22	1位
62	94	2013.10.18~10.24	仁川	鄭進(長野)	南圭吉	17	6	6	29	1位
63	95	2014.10.28~11.03	済州道	金炳鍾(大阪)	梁英守	14	5	5	24	1位
64	96	2015.10.16~10.22	江原道	朴平造(北海道)	千正己	10	4	6	20	1位
65	97	2016.10.07~10.13	忠南	李光復(宮城)	尹源一	12	4	4	20	1位
66	98	2017.10.20~10.26	忠北	樺五雄(滋賀)	樺五仁	7	4	6	17	1位
67	99	2018.10.10~10.18	全北	千憲司(東京)	成正幸	11	8	4	23	1位
68	100	2019.10.04~10.10	ソウル	吳公太(長野)	許孟道	5	6	12	23	3位
69	103	2022.10.07~10.13	蔚山	孫栄泰(東京)	金利中	7	6	6	19	2位

*第62回大会までは国内総合順位。第63~67回大会は順位対象外。第68回大会から海外同胞の部総合表彰導入。第69回大会はソウル五輪開催年のため順位なし。
 38、39回大会は記録がないが参加している。第101回慶北大会は新型コロナウイルス感染拡大のため延期(回数のみカウント)、第102回慶北大会は19歳以下のみ開催、大学・一般・海外同胞の部は中止。

参加回数 69回 金 318 銀 203 銅 229 計 750 参加累計 9190人



在日同胞の底力発揮を 「ワンチームで戦おう」…128人が誓う



結団式で国民儀礼に臨む在日同胞選手団

開会式に先立って行われた結団式は10月6日、在日同胞選手団の宿所、ベニキアホテル梁山で開催しました。蔚山広域市の鄭彰基文化体育政策特別補佐官、国会議員の裴賢鎮氏（国民の力）が参席し選手団を激励しました。

地方本部と各競技団体役員や参観団も激励に駆けつけました。

崔相英在日本大韓体育会会长が「選手達皆さんは3年ぶりの韓国国体開催を待ち望んでいたと思う。この間、鍛えた技量を母国の舞台でしっかり発揮してほしい」と呼びかけました。

韓国国体が運命を変えた

安昌林選手がビデオメッセージ

尹徳敏駐日韓国特命全権大使と在日同胞3世柔道選手で東京五輪銅メダリストの安昌林選手からビデオメッセージが寄せられました。

安昌林選手は「高校3年の時、初めて韓国国体に参加したことが貴重な体験となり、僕にとっても大きな運命の転換期となった。みなさんも100パーセントの力を発揮し、この貴重な体験を韓国国体でつかんでほしい」とメッセージを寄せた。

尹大使も「在日本大韓体育会は設立以来、過去に多くの世界に羽ばたく韓国代表選手を輩出してきた。また、韓日スポーツの懸け橋としての役割も果たしてき



あいさつを述べる崔相英在日本大韓体育会会长



在日同胞選手団を激励する蔚山広域市の鄭彰基文化体育政策特別補佐官（左）と国会議員の裴賢鎮氏（国民の力）

た」としながら、「スポーツを通じて韓日の相互理解増進と在日同胞がひとつに結束する姿を見せていただきたい」と期待を込めました。

選手を代表して李晃輝選手（サッカー）と李瑞月選手（テコンドー女子）が「全力で競技に臨み在日同胞代表選手としての底力を示す」と力強く選手宣誓しました。

続いて、新韓銀行とOK金融グループから在日同胞選手強化のための激励金が伝達されました。

この後、選手団副団長の金昭夫氏が選手たちの活躍を期して乾杯の音頭を行いました。



各競技別に選手たちが意気込みを述べた
(写真上はサッカー、下はテコンドー)



安昌林 元柔道韓国代表

安昌林選手はビデオメッセージを通して「貴重な体験を韓国国体でつかんでほしい」と激励



最善を尽くして怪我なく試合に臨んでいただき、選手団一人一人のご健勝をお祈りいたします

尹徳敏大使は「スポーツを通じて在日同胞がひとつに結束する姿を見せていただきたい」と期待を寄せました



新韓銀行（左）とOK金融グループから在日同胞選手強化のための激励金が伝達されました





3年ぶりの母国夢舞台

歓呼の中で歓迎…尹大統領も激励



第103回全国体育大会・蔚山2022は10月7日、大韓民国の産業首都と呼ばれる蔚山で華麗に開会式を行い、1週間の熱戦に突入しました。

蔚山では17年ぶりの開催であり、新型コロナウイルス感染症の関係で2019年の第100回ソウル大会以来、3年ぶりの正常開催となりました。

蔚山市と大韓体育会はこの日、蔚山総合運動場で尹錫悦大統領と李起興大韓体育会長、朴普均文化体育観光部長官、金斗兼蔚山広域市長をはじめ、各市・道と18カ国の大韓同胞選手団および役員、市民など1万5000人余りが参加しました。

開会式は「湧き出せ蔚山」といのテーマで午後5時から式前イベントを皮切りに午後6時に蔚山の発展史をミュージカルで表現した式典公演と続きました。

午後6時30分、カウントダウンと共に始まった公式行事は、第53歩兵師団と第2作戦司令部で構成した先導楽隊を先頭に選手団が入場しました。

蔚山大会では主役である選手団が目立つように本部席正面から中央舞台に入場しました。

選手団の入場は次期全国体育大会の開催地である全羅南道選手団を皮切りに市・道選手団、18カ国大韓同胞





選手団、以北5道選手団、蔚山市選手団、審判団の順で行われました。

尹大統領は開会式で、「大韓民国経済の心臓の産業首都でもある蔚山で開かれる今大会が感動と希望を与える」と力説しました。

続いて尹大統領は「全国体育大会は大韓民国スポーツの生きた歴史だ。各市道と海外同胞を代表する選手

たちが参加する唯一の総合体育大会で、100年以上の歳月の間、私たちの生活と共に共にしてきた」と評価しました。さらに「戦争の真っ最中だった1951年に光州で、IMF金融危機の中で1998年は済州で、自分の限界に挑戦した韓国選手たちの姿は国民に厳しい時代にも勇気と希望を与えた」と強調しました。





3大会5年ぶりに優勝



3大会5年ぶりの優勝を飾り歓喜の在日同胞イレブン

サッカー海外同胞の部は蔚山市蔚州郡の「良絶串スポートパーク」で行われました。

出場12チームが3チームずつ、4組に分かれて予選リーグを戦い、各組1位と2位チームの最上位が準決勝に進出するルールで行われました。

在日同胞は在ニュージーランド同胞、在カナダ同胞と同組に入りました。

在日同胞の初戦は10月8日、ニュージーランド同胞と対戦。開始早々から圧倒的な攻撃力をを見せつけて、9-0と圧勝しました。

翌日、在カナダ同胞とは在日同胞が前半終了間際に先制ゴールを決めましたが、後半終了5分前に痛恨の失点を浴び1-1で引き分けました。これで在日同胞は1勝1分けで勝ち点4としました。

10日に在カナダ同胞が在ニュージーランドに勝利し勝ち点4で並びましたが、フェアプレー・ポイントで在日同胞が上回り、組1位で準決勝進出を決めました。警告1枚を受けていた在カナダ同胞も2位の最上位チームとして準決勝に進みました。

準決勝は在豪州同胞と対戦。両チームとも譲らず、0-0のまま、PK戦に突入かと思われたアディショナル



在カナダ同胞の試合で先制ゴールを決めた在日同胞



在豪州同胞との準決勝で終了間際に劇的な決勝ゴールを決める



在カナダ同胞の決勝で2点目を決めた在日同胞

タイムに在日同胞がゴール前の混戦からこぼれ球を押し込み劇的な決勝ゴールを決め、決勝戦に駒を進めました。

決勝戦の相手はワイルドカードで勝ち上がった在カナダ同胞との再戦となりました。

前回同様、前半は双方ともに得点を許さず、0-0のまま、後半に突入。

拮抗が破れたのは後半10分過ぎ、在日同胞が左サイドからパスでつなぎ、ゴール左横の角度のないところから放ったシュートがゴールネットを揺らし、待望の先制ゴール。

これで勢いづいた在日同胞はその後、左コーナーキックから直接ゴールを決めて追加点。さらに、その4分後もコーナーキックからゴール前のこぼれ玉をしつかり押し込み3-0と試合を決定づけ、3大会5年ぶりの優勝を飾りました。

◆在日同胞チームの結果

- ▽予選リーグ第1節 10月8日 10:00
在日同胞 9-0 在ニュージーランド同胞
- ▽予選リーグ第2節 10月9日 10:00
在日同胞 1-1 在カナダ同胞
- ▽準決勝 10月11日 10:00
在日同胞 1-0 在豪州同胞
- ▽決 勝 10月12日 10:00
在日同胞 3-0 在カナダ同胞
最終結果 優勝



優勝の瞬間バンザイをして喜び合う



優勝カップを手に喜び合う在日同胞イレブン



柔道

3選手全員がメダル



金メダルを獲得した許湖音選手

国内種目の柔道は10月6日からタシケントで開催される柔道世界選手権への対応策として、先行して9月21日から26日まで蔚山文殊体育館で開催されました。

在日同胞選手は国内所属3人、在日同胞所属3人、あわせて6選手がエントリーしましたが、在日所属3選手全員がメダルを獲得しました。

まず、初日の9月21日、男子大学の部-81kg級では在日同胞の小川晟矢選手（天理大3年）が銅メダルを獲得しました。22日は一般男女が行われ、男子-90kg級の小川裕暉選手（小川警備）が銅メダルを獲得し、兄弟そろってのメダル獲得となりました。

25日は高校男女が行われ、女子-52kg級の許湖音選手（埼玉栄高校3年）が優勝しました。

許湖音選手は、今年のグランドスラムで2度優勝するなど、韓国女子柔道期待の株、許海実選手（-57kg級、ホ・ミミ=19、慶北体育会）の妹。許海実選手も9月22日の一般女子の部で金メダルを獲得しており、姉妹そろっての金メダル。



国体後のグランドスラムで優勝した許海実選手（左）

3회 전국체육대회
NATIONAL SPORTS FESTIVAL
2022.09.21 ~ 09.26



兄弟そろって銅メダルを獲得（写真左、右から2人目が小川晟矢選手、写真右が小川裕暉選手）



全員がメダルを獲得した在日同胞柔道選手



文吉洋柔道チーム監督（右から2人目）と在日同胞柔道選手

許湖音選手は「手術明けで、多くの不安を抱えていましたが、優勝という結果を残すことができて、とても嬉しいです。そして、長所と改善点を見つけることができました。今回の経験を活かして、今後更にレベルアップしていきたい」と姉に続く韓国代表入りへの意気込みを見せています。

◆在日同胞選手の結果

9月21日 男子大学の部-81kg級

小川晟矢（天理大3年） 銅メダル

9月22日 一般男子-90kg級

小川裕暉（小川警備） 銅メダル

9月25日 高校女子-52kg級

許湖音（埼玉栄高校3年） 金メダル



ボウリング

女子個人戦で金・銀

蔚山市南区のソングアンボウリング場で行われたボウリング海外同胞の部は10月8日の個人戦を皮切りに、9日2人組戦、10日3人組戦、11日5人組戦、12日のマスターズまで、5日間競技が続けられました。

男女5種目ずつ、合わせて10個の金メダルが狙える競技だけに、金メダルを量産したチームが在外同胞の部、総合順位に大きく影響し、最も期待が高い競技です。

競技初日の女子個人戦では在日同胞ボウリングチームのレジェンドでもある朴祥子選手が金メダル、金賢淑選手が銀メダルのワンツーフィニッシュ。さい先良いスタートを切りました。

2人組、3人組、5人組へとメダルの期待がかかりましたが、結局、最終種目、12日の女子マスターズで朴祥子選手の銅メダル追加に終わりました。

4日間の競技における個人総合点の上位10選手に出場権が与えられるマスターズには、いずれも安定したスコアを維持してきた女子の金賢淑選手が1位で通過、朴祥子選手も3位で通過しました。

マスターズは10選手が1対1でスコアを競う総当たり戦で、勝者には勝利ポイント10点が加点され、9ゲームの総合点により、最後は順位決定戦を行いました。

◆在日同胞選手の成績

10月8日 個人戦

△男子

金学均4位/金一男6位/宋在豪10位
吳官律28位/金玟秀35位/韓新悟41位

△女子

朴祥子 金メダル

金賢淑 銀メダル

車恩伊23位/黃聖姫30位

10月9日 2人組戦

△男子

韓新悟、金学均 7位
宋在豪、金一男 8位
金玟秀、吳官律 18位

△女子

朴祥子、金賢淑 4位
黃聖姫、車恩伊 13位



女子個人戦金メダルの朴祥子選手(中央)と銀メダルの金賢淑選手(左)

10月10日 3人組戦

△男子

金学均、宋在豪、金一男 9位
韓新悟、金玟秀、吳官律 11位

△女子

朴祥子、金賢淑、車恩伊 4位

10月11日 5人組戦

△男子

金学均、宋在豪、金一男、韓新悟、吳官律 6位

△女子

4人によるメイクアップのみ出場

10月12日 マスターズ

△女子

朴祥子 銅メダル
金賢淑 6位



テコンドー

全選手がメダル獲得



海外同胞の部では全選手がメダルを獲得したテコンドーの在日同胞選手

テコンドーは海外同胞の部のほか、国内種目にも出場しました。いずれも蔚山文殊体育館で開催されました。海外同胞の部は10月10の単日開催です。

海外同胞の部には、男子3人、女子1人の選手を派遣しましたが、全選手がメダルを獲得しました。

金秀範選手（男子+80kg級）と山本陸人選手（男子-58kg級）が金メダルを獲得しました。金秀範選手は7連覇の快挙です。

また、李済暉選手（男子-68kg級）は銀メダル、妹の李瑞月選手が（女子-57kg級）銅メダルと、兄妹そろってメダルを獲得し、合計4個のメダルを獲得しました。

国内種目に登場した文太一選手（男子高校-54kg級）は1回戦突破し、2回戦敗退と善戦しました。

◆在日同胞選手の結果

金秀範（男子+80kg級） 金メダル

山本陸人（男子-58kg級） 金メダル

李済暉（男子-68kg級） 銀メダル

李瑞月（女子-57kg級） 銅メダル

文太一（男子高校-54kg級=国内種目） 2回戦敗退



7連覇を果たした金秀範選手（左）



テニス 男女とも全種目でメダル



女子ダブルスで優勝した崔菜月選手(左)と咸銀栄選手

テニス海外同胞の部は男女シングルスとダブルスの全4種目を競い、予選ラウンドが10月8、9の両日、蔚山大学テニスコート、決勝トーナメントは10日に文殊テニスコートで開催されました。

在日同胞は男女ともに3人ずつを派遣しました。女子ダブルスの崔菜月、咸銀栄組が金メダル、男子ダブルスの韓成民・尹準熙組は銀メダルを獲得しました。

また、シングルスでは男子の尹準熙選手が銀メダル、女子の咸銀栄選手は銅メダルを獲得し、全種目で



女子ダブルスで金メダルを獲得



男子シングルス銀の尹準熙選手



在日同胞テニスチームは全種目でメダルを獲得

メダルを獲得しました。

尹準熙選手は「いずれの種目も優勝は逃しましたが、決勝まで進めたことには満足しています。この機会を生かして今後自分が成長できるようにしていきたい」と来年に向けて意気込みを見せっていました。

◆在日同胞選手の結果

尹準熙(男子シングルス) 銀メダル

咸銀栄(女子シングルス) 銅メダル

韓成民、尹準熙(男子ダブルス) 銀メダル

崔菜月、咸銀栄(女子ダブルス) 金メダル



スカッシュ 4年ぶりの金炯珠がV



金メダルを獲得した金炯珠選手（左）と喜び合う李点順監督（中央）と李間鏞選手

スカッシュ海外同胞の部は10月8、9の両日、新設されたばかりの蔚山文殊スカッシュ競技場で開催されました。

8日の予選リーグでは女子の金炯珠選手が2戦全勝で決勝トーナメントに進出し、男子の李間鏞選手は予選リーグ1勝2敗で決勝トーナメント進出を逃しました。

決勝トーナメントでは金炯珠選手が見事、優勝を飾りました。あわせてチーム総合で1位となり、優勝杯が贈られました。

金炯珠選手は「4年ぶりの韓国国体でもあり、ワクワクしました。様々な国から参加した各国同胞選手たちと試合ができて、そしてまた優勝できて、とても意義深い経験になりました。来年もふたたび優勝できるよう、日本でさらに練習を重ねます」と述べていました。

李間鏞選手は「3年ぶりの韓国国体で他の国の選手たちと久方ぶりに再会できて良かったです。残念ながら準決勝には進めませんでしたが、良い経験になりましたし、自分自身を振り返る機会になりました」と笑顔を見せしていました。



チーム総合の優勝杯を手にするスカッシュ在日同胞選手団

◆在日同胞選手の結果

金炯珠（女子） 金メダル

李間鏞（男子） 1勝2敗で予選リーグ敗退



卓 球

女子準優勝、男子銅



銀メダルを獲得した李仙選手（写真奥側）

卓球は蔚山市東区の田下スポーツセンターで10月10日に男女シングルス2種目の予選リーグ、11日に準決勝、決勝が行われました。在日同胞は女子の李仙選手が予選リーグを1位通過、男子の李潤洙選手も予選リーグ2位で準決勝に進出しました。両選手で挑んだ男女混合ダブルスは予選敗退しました。

李仙選手は準決勝で在ニュージーランド同胞のハン・スジン選手に3-1で勝利し、前大会に続いて決勝に進出しました。2大会ぶりの金メダルをめざしましたが、在米同胞のキム・ソンスク選手に1-3で惜しくも破れて銀メダル、李潤洙選手は準決勝で在ニュージーランド同胞のハン・ジョンウプ選手に破れ、銅メダルでした。

李仙選手は「力不足で銀メダルで終わり、残念ですが、楽しい機会を設けていただき、感謝しています。」と3年ぶりの韓国国体に笑顔を見せっていました。

李潤洙選手も「競技を通して、多くの海外同胞と交流を深めることができ、また、試合会場では国内選手達のハイレベルな試合を間近で観戦することができ、とても良い経験になりました。今回の経験を糧にして、練習に励みたい」と述べていました。

◆在日同胞選手の結果

李 仙（女子シングルス） 銀メダル

李潤洙（男子シングルス） 銅メダル

李 仙、李潤洙（混合ダブルス） 予選敗退



銀メダルを獲得した李仙選手（左端）



銅メダルを獲得した李潤洙選手（右端）



剣道 初優勝ならずも健闘光る



初優勝ならずとも準優勝と健闘を見せた剣道の在日同胞チーム

前大会、第100回ソウル大会から海外同胞部門の正式種目に加わった、剣道の団体戦は10月10日、蔚山市中区の蔚山中央高校体育館で開催されました。

在日同胞のほか、在インドネシア、在中、在ベトナム、在フィリピン、在米の6カ国海外同胞チームが参加しました。

組み分け抽選会でシードとなった在日同胞チームは準々決勝で在米同胞と接戦の末2-1（5本-3本）で決勝進出しました。

決勝戦の相手は準々決勝で在中同胞、準決勝で在インドネシアドア同胞を圧倒して勝ち進んできた在ベトナム同胞と激突しました。

接戦の末、1-2（3本-4本）で惜しくも初優勝を逃しましたが、銀メダルと準優勝杯を獲得し初のメダルとなりました。

韓国国体に初参加した金振奎選手は「韓国での試合は緊張感もあり、自分なりにチームに貢献したいと頑張りましたが優勝を逃し準優勝になりました。日本出発

前から色々と準備して下さり、韓国で試合が出来るように準備して下さった体育会の皆様に感謝します。もしチャンスあれば次こそ優勝をめざして頑張ります」と述べていました。

金明燮選手も「私は2回目の出場となります、今大会の監督は孫京翼顧問の故郷でもあり、そして前回の1回戦敗退という悔しいさ胸に、必ず優勝を獲る覚悟でしたが、ベトナムとの決勝戦で負けてしまい残念の思いです。ただ、結果だけ見れば悔しいですが、コロナ禍で稽古を通して色々な先生方との繋がりや、自分への成長に繋がる大変良い機会となりました。次の大会は必ず優勝し、金メダルを首に掲げたいです」と意気込みを見せっていました。

◆在日同胞選手の結果

準決勝 在日同胞 2 (5本) -1 (3本) 在米同胞

決 勝 在日同胞 1 (3本) -2 (4本) 在ベトナム同胞

最終結果 準優勝



水 泳

決勝進出し5位入賞

国内種目の水泳・競泳は10月8日から13日までの6日間、蔚山文殊室内プールで開催されました。

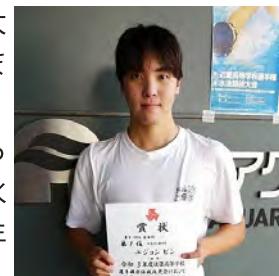
過去に多くのメダルを獲得し韓国代表選手も輩出してきた競泳ですが、今大会には劉政頻選手（18・近畿大学）が一般男子・自由形200㍍と400㍍出場しました。

10日の200㍍は1分50秒の5位で予選通過しましたが、決勝では7位でした。11に行われた400㍍も予選を突破し決勝に進出しました。結果、メダルには届きませんでしたが、5位入賞を果たしました。

劉選手はソウル市出身の留学生。高校1年で大阪の建国高校に留学し、高校スポーツの祭典、インターハイ

2021（全国高等学校総合体育大会）に大阪府代表として出場しました。

幼い時からハルモニに連れられてプールに行く機会があり、水の中に入るのが好き。小学校1年の時から本格的に競泳に親しみ、実力を向上してきました。



劉政頻選手

◆在日同胞選手の結果

劉政頻 一般男子自由形400㍍ 5位
一般男子自由形200㍍ 7位



陸 上

メダルへあと一步

国内種目である陸上のトラックとフィールド種目は、蔚山総合スタジアムで10月9日から12日まで行われました。在日同胞は同志社大学出身で陸上クラブチーム「名古屋ストライダーズ」の都康炳選手（25）が男子一般400㍍ハードルに出場しました。

京都市出身の都選手は2019年の関西インカレで優勝したほか、同年の日本選手権で8位、日本の国体で2位の実力を誇り、金メダルを目指していました。

10に行われた同種目で都選手は惜しくも4位でメダルに一步届きませんでした。



メダルを逃すも4位入賞した都康炳選手（手前）

◆在日同胞選手の結果

都康炳 一般男子400㍍ハードル 4位



ラグビー

国内大学と親善マッチ



高麗大学に勝利した在日同胞ラグビー代表（写真はソウル国体で）

ラグビーの在日同胞選抜チームは5大会連続の韓国国体に体験参加しました。

在日同胞選手団の本隊とは別途に、大韓ラグビー協会の会長を務める崔潤会長（在日本大韓体育会副会長）を中心に、同ラグビー協会理事で日本ラグビー協会のリソースコーチ、吳英吉氏らを引率団にソウルで高麗大などと親善試合を行いました。

10月8日に行った高麗大学との試合は公開競技ながらも37-31で勝ちました。通算成績は4連勝です。



閉会式

木浦で再会を誓う 次回、全羅南道大会は10月13日開幕



閉会式で海外同胞部門・総合準優勝杯を掲げる孫栄泰在日同胞選手団長（中央）

新型コロナウイルス感染症を乗り越えて3年ぶりに正常開催した全国体育大会・蔚山2022が10月13日、1週間の旅程を終えて幕を閉じました。

2003年以来、19年ぶりの蔚山大会は歴代最多の選手団が参加し、多くの名場面が生まれました。

10月13日の総合表彰式を兼ねた閉会式では大会旗が蔚山広域市から次期開催都市の全羅南道に引き継がれ、メイン会場となる木浦での再会を誓い合いました。

李起興大韓体育会長は閉会辞を通じて、「今大会は韓国スポーツ界の躍進を確認できる場だった。また、杭州アジア大会など来年開かれる国際大会で繰り広げられる選手たちの美しい挑戦を確認できると考えられるので期待も大きい」と述べました。

金斗謙蔚山広域市長は、今大会、運営スタッフとして、苦労したボランティア代表とともにステージに登壇し、「蔚山を灯した希望の聖火は来年、全羅南道で再び輝くだろう」としながら、「全南大会でも市民をはじめ全国民と海外同胞の皆様の関心と声援をお願いする。蔚山でともにしていただいた方々に感謝の意を伝えます」と別れを告げました。

次期開催地の金瑛録全羅南道知事は大会旗を受け取った後「104回大会は清浄とヒーリング、生命の地であ

る全羅南道で開催される。素敵な和合と感動の大会になるようにしっかり準備する。合わせて来年は全羅南道訪問の年でもあり、皆さんをしっかりおもてなししたい」と述べました。



海外同胞部門の総合優勝は在米国同胞、準優勝は在日同胞、第3位は在インドネシア同胞



大会を無事終え、歓送のあいさつで「次回大会も多くの关心を寄せてほしい」と述べる



閉会式で「献呈の舞」を披露する蔚山市立舞踊団



次期開催都市の全羅南道に大会旗が引き継がれた

第104回全国体育大会・全羅南道2023

第104回全国体育大会は2023年10月13日から19日までの7日間、木浦市をメイン会場に全羅南道22の市・郡、65の競技場で分散開催されます。17の市・道と海外同胞選手団など3万人余りが参加する予定です。

大会スローガンは「ともに走ろう！全羅南道で、ともに開こう！大韓民国」。

エンブレムは全羅南道の英文イニシャルである「J」に燃え上がる聖火を土台に、豊かな清浄全南、熱い情熱とエネルギーが飛翔する全南の姿を調和しました。

マスコットは「ナムドとナミ」を応用しました。少年の「ナムド」と少女の「ナミ」でペアを組みも美しい出会いと和合を意味します。

両腕を広げながら歓迎する姿は、全羅南道の文化と伝統を受け継いで、道民と選手がコミュニケーションを広げよう表現しています。



閉会式で次期開催都市の全羅南道が歓迎公演


 제104회 전국체육대회
THE 104th NATIONAL SPORTS FESTIVAL

제104回全羅南道大会のエンブレム(左)とマスコット(左側が「ナムド」、右側が「ナミ」)

サッカー3大会ぶりの優勝に感動

張太祐(サッカー)

今回、初めて国体に参加させてもらいました。国体に参加して日本ではできない経験をたくさんさせていただいて選手として人として、もっと成長して行かないといけないと感じました。

また、いろんな在日のプレーヤーと知り合えて、一緒にプレーできて最高の時間でした。この経験を糧にしてこれからも頑張って行きたいと思います。



張賢祐(サッカー)

今回の韓国国体に招待してくださり本当にありがとうございました。初参加ということで不安など少しありましたが、9日間、韓国で過ごしてみて、とても充実した時間になりました。サッカー競技としても優勝という成果を上げることができ、満足できる結果だった。来年も参加したいと思います。

康胤二(サッカー)

今回の国体で自分は3回目になりますが、毎回学ぶことや刺激になることが多いです。個人としては何も結果を残せていませんが、この国体で学んだことや経験したことこれをからの人生に活かしていきたいと思います。

張平修(サッカー)

韓国国民体育大会に初出場という事で、環境、文化、景色全てにおいて初めての体験になりましたが、素晴らしい経験をすることができました。サッカーチームとしても、優勝することができ、最高の結果で終われたことが何よりですが、競技を通して、世界各国の同胞の方々との交流もでき、改めて、この大会の意義深さを感じることができました。素晴らしい環境を与えてくださった、在日本大韓体育会の方々に感謝すると共に、この経験を今後も伝えていきたいと思います。

金康太(サッカー)

コロナ渦の中、3年ぶりに国体が執り行われた事、参加できた事が本当に良かったと思います。これもすべて、在日体育会関係者のみなさんのおかげだと思って

おります。本当にありがとうございます。サッカーでは、優勝として締めくくれたことも本当によかったと思います。毎回感じるのは、韓国国体を通じて、新しい出会いや、自分のルーツを思い出させてくれる事です。今後もこのようなイベントに関わっていけるよう日々精進していきたいと思います。ありがとうございます。

李晃輝(サッカー)

今回初めて韓国の国体に参加することができた上に、競技の方でも優勝することができ、実に嬉しく思います。競技以外の部分でもたくさんの方達と交流を深めることができました。

母国でサッカーができたことや、サッカーを通して学んだこと、それ以外の場所でも多くの素晴らしい経験ができました。

この環境が当たり前ではない中で、大韓体育会や在日体育会の関係者の方達に感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を活かして今後も頑張っていきたいと思います。

康 翔(サッカー)

皆様、大変お疲れ様です。まず、関係者の皆様本当にありがとうございました。コロナ禍で3年間開いてまたこの大会に参加できたことを心から感謝します。

僕は今大会で4回も参加させてもらって、こういった在日韓国人としてのルーツをもち同じ環境で育った人らと、日本では知り合えない方々と一団となって何かの目標に向かって頑張る時間がすごくいいことだと思いました。

こういった大会のおかげで現在も国体で知り合った先輩の所で仕事をさせてもらっています。そういった出

3年ぶりの夢舞台実現に感謝



会いの場でもとてもいいことだと思い心から感謝します。サッカーの方でも優勝できとても良い時間を過ごせました。また来年も参加できるのならぜひひしたいのでよろしくお願ひ致します。

金龍哉(サッカー)

韓国国体に初参加してから7年が経ちますが、その期間で同じ在日という仲間が何十人と知り合い、歴史を共有し、絆も深まりました。韓国国体があるからこそ、このような素晴らしい事が生まれるのでとても良いと思います。

申永吉(テニス・監督)

今回の韓国国体は3年ぶりに行われる通常大会であり、大きな期待がかかりました。各国海外同胞選手たちの実力が気になりました。

やはり総合優勝を目指す国々は多くの準備をしたと見ていました。私は個人的に今回の在日代表選手たちはハイレベルだったと思います。もちろん残念な部分も多くあります。しかし、これがスポーツの醍醐味でもあります。

来年はしっかりと準備をして、期待に応えるテニスチームを作っていきます。

最後に今回の韓国国体参加のために多くの力を傾けてくださった朴相泓専務理事以下、すべてのスタッフの皆さんに心から感謝の気持ちを伝えます。ありがとうございました。

韓成民(テニス・男子)

第103回韓国国体蔚山大会に参加させていただき、ありがとうございます。また、毎年、物心両面でサポ

ートして頂く民団関係者の皆様、在日大韓テニス協会の会長と役員をはじめ、チームの監督・コーチ選手団の皆様に感謝の言葉をお伝えしたいと思います。

今大会では総合2位とシングルスとダブルスでそれぞれ2位とメダルを獲得できました。短い間でしたがチームとのコミュニケーションも円滑に行われた結果だと思います。

個人的には残念な結果ですが、より良い成績のためにチーム全体が足りない部分に気づき、実践するための時間を持ちたいと思います。

最後になりますが、いつも最高のサポートをして頂き、感謝とお礼を申し上げます。引き続き、ご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。失礼致します。

尹準熙(テニス・男子)

今回の韓国国体でいずれの種目とも優勝は逃しましたが、決勝戦まで試合ができる良かったと思います。また、この機会を生かして今後自分が成長できるようにしていきたいと思います。

尹栄湖(テニス・女子)

前回大会に引き続き、今大会も参加させていただきありがとうございます。

今大会は応援のみの参加となりましたが、在日チームの一員として一緒に参加することができて楽しかったです。最後になりますが、在日選手団の関係者の皆様ありがとうございます。

咸銀栄(テニス・女子)

はじめに航空便や宿泊先が少ない中、スムーズに選



世界の仲間とのつながり大切に

手たちが国体参加できるように航空便や宿泊先の手配や大会期間中にたくさんのサポートをしてくださった在日体育会本部の方たちに感謝申し上げます。

お陰様で全力で試合に臨む事ができました。コロナ禍で3年ぶりに通常開催された韓国国体・海外同胞の部だったので、シングルスで金メダルを目指して大会に臨みましたが、目標には届きませんでしたので、悔しさが残ります。来年は全て金メダルが取れるように準備して行きたいと思います。

鄭良洙(ボウリング・監督)

第103回韓国国体蔚山大会への在日同胞選手団派遣にご尽力された崔相英会長はじめ、在日大韓体育会関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

コロナ禍によりこの間、中断を余儀なくされた海外同胞部門が3年ぶりに開催されたことは、国体に関わる体育人の一人として、改めて大きな喜びと誇りを感じずにはいられない大会となりました。

男女ともにメダル獲得を期して臨んだ大会でしたが、正直、結果は満足のいくものとはなりませんでした。各ゲームを振り返ると、競った展開から9、10フレームの勝負所で決めきれない場面が目立ち、今後の課題であると感じます。

一方で、初出場の選手やキャリアの短い選手が積極的にプレーし、力を発揮してくれたことは大きな収穫でした。この経験が今後の更なる飛躍に繋がることを期待します。

各国同胞とも、新たな選手発掘や育成強化の成果を見て取れます、在日大韓ボウリング協会も更に努力していくなければいけないと強く感じました。

林永起(ボウリング・コーチ)

コロナ禍で3年ぶりの開催でしたが、体育会をはじめ、関係各所皆様のご尽力のおかげで、様々な困難がある中でも、無事に大会を終えられたことに敬意と感謝を申し上げます。

在日大韓ボウリング協会としては、約3年間の活動停滞期間の傷跡は大きく、充分な準備ができたとは言い難い面もありました。特に女子選手が定数6人に満たず4任の派遣に留まったことは大きな課題です。

競技結果としては金・銀・銅メダルを各1個ずつ獲得

したことは一定の成果でしたが、もっと多くのメダルに絡めるチャンスがあったように感じます。

今回の経験を糧に選手たちの更なる活躍に期待したいと思います。

韓新悟(ボウリング・男子)

この度は顧問団、引率団、選手団の皆様に支えられ3年ぶりの韓国国体に出場が出来ました。今回は在日本大韓ボウリング協会の会長兼選手としての参加でした。個人的には金メダルを獲得出来ず悔いは残りましたが、チームとして、メダル獲得ができ、微力ながら貢献出来たことを、監督、マネージャー、チームメイトに感謝したいと思います。

また様々な課題も浮かび、来年に向けて大きな目標を掲げ、仲間と強いチームをつくり、コロナ禍ではありますが、対策をしっかりと活動を増やしていきます。

韓国国体に参加する度に、仲間との繋がりが、いかに自分の人生に影響力があるかを痛感致します。皆様本当にありがとうございます。これからも未永く、ボウリング協会を宜しくお願い致します。

宋在豪(ボウリング・男子)

第103回全国体育大会を準備してくださった在日本大韓体育会に感謝いたします。

在日本大韓ボウリング協会の会長以下、役員の皆様にも感謝申し上げます。監督とコーチにも感謝します。

今回の大会に参加できてとても嬉しかったです。仲間たちと一緒に試合を準備できて、とても良かったです。ただ、今大会は成績が良くなかったです。ボウリングチームと同僚たち、本当にごめんなさい。来年選抜されたなら、一生懸命練習して今大会の不振を必ず挽回したいです。

在日同胞ボウリングチーム、ファイト！

金学均(ボウリング・男子)

3年ぶりに韓国国体に参加することができて、在日本大韓体育会関係者のみなさまに感謝の気持ちでいっぱいです。

本番に向けて、自分なりには準備したつもりでしたが、まったく自分の思うような結果が残せず、ただも

各国同胞のレベルアップ痛感

悔しい思いが募ります。また練習の質と量とともに、更なるレベルアップが必要だと感じました。周りの多くの方々のサポートがあったからこそ、貴重な経験ができました。本当にありがとうございました。

金一男(ボウリング・男子)

蔚山国体に参加させていただきましてありがとうございました。

私としては久しぶりの参加もあり、空白が続いていましたが、どこか、大会を楽しみにしていた自分がいます。チームのみんなと大勢でボウリングをすることで、より気合いやかけ声が入る分、大会はすごく盛り上がる所以、そういう雰囲気がすごく大事なのだと感じました。

在日チーム（特に男子）がそれをできていたか？といえば疑問が残る大会となり、悔しいです。

日々の練習もさることながら、大会経験もしっかりと積まないと上位にいくことは難しく、まだまだ練習不足を痛感させられました。しかし、ボウリングを通じた海外同胞との交流、大会はすごく楽しめました。

今回の経験を踏まえ、より一層鍛錬をしつかりしていきます。ありがとうございました。

吳官律(ボウリング・男子)

韓国国体は初参加で、楽しみながら、一緒に参加した選手たちに「迷惑にならないように頑張りましょう！」の気持ちで臨みました。楽しさをベースにしていましたが、自分も選手として参加した以上、「みんなが驚くような成績を出してみたい！」という気持ちで試合に集中しましたが、想像以上に壁の高さを実感しました。

壁が高いのは事実ですが、レベルアップすれば、メダルを狙うのも十分可能性があるとも感じました。来年の国体に向けて、練習を重ねてレベルアップし、メダルを目指したいと思います。

韓国国体参加を支援して頂いた在日大韓体育会と在日本大韓ボウリング協会にも感謝の気持ちで一杯です。選手として結果で返せるように頑張りたいと思います。

良い経験をさせて頂いた皆様に感謝を申し上げたいと思います。

金賢淑(ボウリング・女子)

過去、5回参加していますが、今大会は3年ぶりの開催でもあり、まず在日本大韓体育会の役員様、引率者に感謝致します。監督、コーチを初め、皆様、本当にお疲れ様でした。

毎回思うことなのですが、特に監督、マネージャーに感謝します。

今回は宿所から試合会場までが遠かった上に、試合時間のシフトもありとてもご苦労されたと思います。

3年ぶりの開催でワクワクしてましたが、思った以上の結果が出せず、残念な気持ちです。国体の大変さを改めて痛感しました。

気持ちの上では毎日メダルが獲得できそうでしたが、そう簡単に獲れるメダルではありませんでした。また、1年間、腕を磨きたいと思いました。

まだまだコロナが収まってない中、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

朴祥子(ボウリング・女子)

3年ぶりの韓国国体開催に参加の機会を与えてくださいり、選手団長をはじめ、役員の皆様、事務局の方々、本当にありがとうございました。

今年のレーンコンディションは、今までになく厳しいもので、事前にオイルパターンを想定した練習会でも、アベレージ180打であれば、上位に入れると思って本番を迎きました。

運良くシングル戦では、金メダルを取る事ができましたが、ダブルス戦以降はなかなか点数が上がらず、メダル獲得には届きませんでした。

厳しいコンディションの中、各国同胞選手たちも大変苦労しているようで、もっとレベルアップを図っていかなければならぬと強く感じました。

久しぶりの国体参加で、年齢的にも体力的にも厳しく、監督以下、チームのメンバーに大変ご迷惑をおかけしました。また、コロナ禍の中、事前準備のため、特にご苦労をおかけしたマネージャーに感謝申し上げます。

最後に、シングル戦で最後まで応援いただいた、金昭夫選手副団長、ありがとうございました。これからもご支援よろしくお願ひいたします。

競技に集中…スタッフのおかげ

車恩伊(ボウリング・女子)

3年ぶりに開かれた全国体育大会！いろんな海外から参加した各国同胞と久しぶりに再会し、嬉しく挨拶しながら、ともに一生懸命練習してきた技量を発揮しようと心がけました。結果は残念でしたが、来年の全国体育大会に向けて、さらに一生懸命練習して参加したいとの覚悟をして帰ってきました。

黃聖姫(ボウリング・女子)

コロナ禍による開催中止を経て在日体育会として3年ぶりに韓国国体への参加となりました。ここまでこぎ着けていただいた体育会会长、選手団長をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

蔚山での競技会場は素晴らしい近代的で申し分のない施設でした。会場となったボウリング場はそれほど広くないのですが、感心したのはそのシステムです。人力を必要としないレーンメンテナンス機械の導入や、投球後にモニターに映し出されるボールのコース映像、記録訂正時間の速さなどを見るにつけ、わが韓国が技術的に一流の国に発展したのだと、心から誇りに思わせてくれました。

肝心の試合結果ですが、個人的には何回か出場した中で最悪と言える成績でした。試合に向け週3回、試合用のレーンコンディションであれほど練習を積んできただのに…。

試合結果の不甲斐なさに心が折れそうになりました。今の心境はこうです。

「国体でのリベンジは国体でするしかない」。

来年に向けて一からやり直すつもりで練習に励んでいく決意です。

李信子(卓球・監督)

皆様、大変お疲れ様でした。終わりの見えないコロナ禍の中、3年ぶりに韓国国体が開催され、無事に閉会の日を迎えたこと、これもひとえに在日本大韓体育会の皆様のご尽力のおかげだと深く感謝しております。

今回、卓球の監督として参加させて頂きました。女子は銀メダル、男子は銅メダルとやや不本意な結果となり、在日同胞の総合優勝に貢献できずとても残念でした。

今回、卓球男子（26歳）は初参加で、初の母国訪問で、韓国国内卓球選手達のトップレベルのプレーを目の当たりにし、国内、在外問わず、同じ会場でプレーする空気感、緊張感を共有し、本当に良い経験になったと思います。

今後も若い優秀な選手を発掘し、この素晴らしい経験をさせてあげたいと、強く思うと同時に、この環境を与えて下さる在日本大韓体育会に深く感謝致します。参加選手達のサポート、そしてスムーズな大会運営に余念がなかった皆様、本当にありがとうございました！

李潤洙(卓球・男子)

今回の韓国国体に参加してみて、競技を通して、海外同胞の多くの皆さんと交流を深めることができました。また競技場では国内選手達のレベルの高い試合を間近で観戦することができ、とても良い経験になりました。



これからも今回の経験を糧にして、練習に励みたいと思います。最後に、大会に参加するにあたって体育会の方々には多くのご配慮いただきありがとうございました。

李 仙(卓球・女子)

103回目の韓国国体のために尽力下さった皆様、大変お疲れ様でした。

私自身、金メダル獲得をめざし頑張りましたが、力不足で銀メダルで終わってしまいました。結果は残念ですが、楽しい機会を設けていただき、ありがとうございました！

李点順(スカッシュ・監督)

スカッシュは女子が金メダル、総合でも優勝でき、うれしかったです。また常に新設の会場で試合ができる、大変満足しています。在日本大韓体育会の皆様のご尽力を心より感謝申し上げ今後の活躍をお祈り申し上げます。

経験を糧に継続して切磋琢磨

李閑鏞(スカッシュ・男子)

3年ぶりに韓国国体に参加するにあたり、準備期間がとても良かったし、他の国の選手たちにも久方ぶりに再会できて良かったです。残念ながら準決勝には進めませんでしたが、良い経験になりましたし、自分自身を振り返る機会になりました。

競技に集中できるように在日本大韓体育会から多くの支援と応援をいただき良い大会でした。ありがとうございます。

金炯珠(スカッシュ・女子)

4年ぶりの韓国国体参加でもあり、とても楽しかったです。



様々な国から参加した各国同胞選手たちと一緒にスカッシュができて、そしてまた優勝できて、とても意義深い経験になりました。来年も是非参加し、ふたたび優勝できるよう、日本でさらに練習します。多くの応援、ありがとうございます。

金秀範(テコンドー・男子+80kg級)

今回は途中参加し、試合後すぐに帰国ということで、なかなか韓国を満喫することはできませんでしたが、毎年のように在日本大韓体育会やテコンドーチームの皆様のおかげで、試合に集中することができ、優勝することができました。総合優勝には届きませんでしたが、在日同胞選手たちは、まだ成長すると思いますので、これから日本でも積極的に交流をもち、在日テコンドー団を強くしていくことに貢献したいと思います。

コロナの中、PCR検査が必要な方や不必要な方だつたりと色々ややこしくなり大変ご迷惑をおかけしました。次はしっかり準備して望み、在日が総合優勝できるようにチームみんなの士気をあげていけるように頑張ります。ありがとうございます。

山本陸人(テコンドー・男子-58kg級)

海外同胞選手として大会に参加させて頂き、またコロナ禍にも関わらず大会成功に尽力して下さった関係

者の皆様ありがとうございました。

競技では精一杯力を出し切り優勝することができました。この経験を糧にこれからの練習に励みたいと思います。

李濟暉(テコンドー・男子-68kg級)

初めての海外遠征ということもあり、右も左も分からず終始緊張していましたが、頼りになる引率の師範、先生方を初めとした皆様のおかげで非常に有意義な時間を過ごせ刺激を受けました。

今回の経験から、日頃の練習も今まで以上に気合を入れて取り組もうと感じました。また、なにより同胞の方々と会え、チーム在日本として共に活動できたことがとても嬉しかったです。今回は貴重で素敵なお時間を受けました。

李瑞月(テコンドー・女子-57kg級)

初めて韓国国体に出場させて頂きました。大会を通して経験した全ての出来事が、自分にとって大きな成長に繋がったと感じています。

そして、海外同胞選手と試合を交えたことで、新たな目標を見つけることができました。

最後になりますが、大会関係者の皆様方、この度はこのような貴重な機会を下さり、本当にありがとうございました。

文太一(テコンドー・男子高校-54kg)

今回の韓国国体はすごく学ぶことが多かったです。

私が挑戦したのは国内種目でしたが、本場の韓国でテコンドーに出場できたことは、コロナ禍で試合や遠征がなかった中、ここ数年で1番の刺激になりました。関係者皆様ありがとうございました。



金明燮(剣道・一般団体)

今回の大会は、新型コロナウイルスの影響があり103回目の開催となりました。私は2回目の出場となります。が今回の大会は孫京翼顧問の故郷での開催ということ

国家代表めざし一層努力

もあり、そして前回の1回戦敗退という悔しい結果を胸に、必ず優勝を獲る覚悟でしたが、結果はベトナムとの決勝戦で負けてしまい2位で終わってしまいました。

結果だけ見れば悔しいですが、コロナ禍で稽古を通して色々な先生方との繋がりや、自分への成長に繋がる大変良い機会となりました。次の大会は必ず優勝し、金メダルを首に掲げたいです。

コロナ禍でもこのような素晴らしい大会を運営してくれた在日大韓体育会、大会関係者の皆様、そして在日同胞剣道チームの皆様方に感謝を申し上げます。

高橋忠志(剣道・一般団体)

第103回韓国国体蔚山大会に参加させていただきました。剣道の参加国は日本をはじめ、ベトナム、米国、フィリピン、中国、インドネシアの6カ国でした。決勝でベトナムに敗れて、準優勝でした。

今年はお世話になつてゐる孫先生の故郷での開催であったことから、必ず優勝すると意気込んでいましたが、大変悔しい結果となってしまいました。次回は必ず優勝したいと思います。

ただ、新型コロナウイルス感染症の影響で2年間参加出来なかつた分、このような多くの剣友と交流する機会が持てるようになり、嬉しくもありました。コロナ禍の中の開催で、多くの苦労もあったと思います。素晴らしい時間を経験させていただき、大会関係者の皆様に深く感謝いたします。

金振奎(剣道・一般団体)

今回初めて韓国国体に参加しました。韓国での試合は緊張感もあり、自分なりにチームに役立つように頑張ったつもりですが優勝を逃し準優勝になりました。

日本出発前から色々と準備して下さり、韓国で試合が出来るように準備して下さった体育会の皆様に感謝します。今回は優勝を逃しましたが、もしチャンスがあれば次こそ優勝を目指して頑張ります。

金文達(剣道・一般団体)

はじめに、今大会にご支援を頂きました関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。剣道競技は100回大会から海外同胞部門において正式競技となりレベルも毎回上がってきています。



優勝を逃してしまったお役に立てず悔しい結果となつてしましましたが、次回大会は必ず優勝出来る様に在日剣道会としても、これから1年間活動をして行こうと心新たにしております。ありがとうございました。

河文龍(剣道・一般団体)

今回の剣道競技は、日本、ベトナム、中国、米国、フィリピン、インドネシアの6カ国同胞が競いましたが、私たち在日同胞チームは決勝でベトナム同胞に敗れ、準優勝となり悔しい気持ちもあります。ですが、チーム一丸となり善戦できたと感じております。

また、3年ぶりに参加させて頂きましたが、過去に戦つた事のある海外同胞選手との交流が途切れる事なく、剣道における「交剣知愛」という言葉の通り、剣を交えることでお互いに理解しあえることで縁が広がつている事を感じました。

来年、参加させて頂く機会があれば必ず優勝トロフィーを日本に持ち帰りたいと思っております。

文吉洋(柔道・監督)

国体の出場に際し、多くの方々にサポートしていただき、大変ありがとうございました。おかげさまで在日同胞は選手3人と指導者3人を派遣することができました。本当にありがとうございます。3選手ともにメダルを獲得する結果となり、よく頑張りました。今回の結果は選手にとって次に繋がる大きな結果になりました。

選手たちも今回の結果に満足することなく課題を見つけ次に向けて進んでいます。今後ともにご支援をよろしくお願いいたします。

安沙好(柔道・女子監督)

選手たちをサポートできる機会をくださったこと、本当に感謝しております。私自身、選手時代はたくさん

初めての母国に感無量

んのご恩をいただきました。これからは少しずつ恩返ししていきたいと考えております。

今後も出来る限り在日同胞選手の支えになれるよう努めてまいります。本当にありがとうございました。

李泰範(柔道・コーチ)

コーチとして帯同させてもらい、メダル獲得する事ができて感無量です。選手の減量調整や試合前調整など慣れない場所での調整なので、サポートできて良かったです。ありがとうございました。

小川裕暉(柔道・一般男子-90Kg級)

今回の国体で、3位に入賞することができました。自分の今持っている力を十分に発揮できました。

監督やコーチのサポートのおかげで試合までの練習の手配などスムーズにしてもらい試合に集中できたことに感謝しています。

11月の韓国代表選抜大会では、一生懸命、自分の課題に目を向けて優勝をめざします。ご支援ありがとうございました。

小川晟矢(柔道・大学男子-81Kg級)

3年ぶりに韓国での試合ができたこと、サポートしてくださった在日チームの皆さんのおかげで良いコンディションで試合に臨むことができ感謝しています。

3位に入賞することができ、1ヶ月後の韓国代表選抜大会に向けた課題も見つかり、練習で取り組みながら良い結果を残せるように頑張っていきます。

在日大韓体育会関係者の皆様のおかげで試合に臨めたことに感謝してこれからも頑張っていきます。

今回はサポートいただきありがとうございました。

許湖音(柔道・高校女子-52Kg級)

手術明けで、多くの不安を抱えていましたが、優勝という結果を残すことができて、とても嬉しいです。

そして、長所点と改善点を見つけることができました。今回の経験を活かして、今後更にレベルアップができるように努力していきたいと思います。ありがとうございました。

都康炳(陸上・400mハードル)

私は今回の韓国国体に出場するにあたり、韓国に訪問したのですが、この訪問は私にとって初めての海外訪問となりました。

そのため、今回の遠征で意識したのは日本の常識を捨てることです。日本で当たり前だった水を飲んでも大丈夫であることや、ウォッシャレットがないことなど衛生面では少し不便に思うことがありましたが、ここは日本ではないと割り切ることで、大きなストレスにならなかったです。

一方で初めての韓国ということで、日本とは違う雰囲気を楽しむことができ、充実した日々を過ごせました。日本と文化も近いだけに、似ているところもたくさんあれば、日本語ではなく韓国語の環境にいることで韓国に来たことを実感しました。

試合に関してはメダルに一步届かず、4位と言う結果に終わり、とても悔しく思います。2022年の1番の目標は蔚山国体で優勝することだったので不完全燃焼でした。慣れない環境を受け入れはしてましたが、一方で見えないところで負担になっていたように思います。

その影響か予選は決勝に向けて温存したつもりでしたが、レース後、一気に疲労が来てしまい決勝で思い通りの走りが出来ませんでした。しかし、スポーツというのは結果が全てであり、慣れない環境での試合はザラにあります。

結局はそういうハンデを跳ね返すだけの実力が無かつたため、今回の結果をしっかりと受け止めることができました。

しかし、海外遠征は過酷ということを良く聞いていただけに、そういう経験を直接出来たのは自分にとって非常に大きな糧へとなりました。

このような機会を与えて下さった民団の在日体育会には感謝しています。また、韓国遠征に関して、色々と準備してくださり、レースに専念することができました。

今回はメダルに届かず、とても悔しい思いをしたので、次回、国体出る時は必ず勝てるようになります。練習に励んでいきます。

